

2025年3月号

柳沢プログラム



<https://kodomo-plus.co.jp/>

Copyright © 2024 こどもプラスホールディングス株式会社 All Rights Reserved.

3月号 柳沢プログラム

3月の運動療育

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 【基礎】少し大きなウシガエル跳び | ▶【発展】両手つき片足クマ |
| 【基礎】リンゴぶら下がり | ▶【発展】逆上がりキック |
| 【基礎】しりとり大縄跳び | ▶【発展】回転しりとり大縄跳び |
| 【基礎】色鬼 | ▶【発展】カンガルー色鬼 |
| 【基礎】音聞きゲーム | ▶【発展】音聞きゲーム キーワードで止まる |
| 【基礎】ミニハードル走り | ▶【発展】ミニハードルスキップ |

3月のコラム

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 運動プログラム応用アレンジ | ▶開脚跳び前転 |
| 作業療法士による発達支援コラム | ▶書くことが苦手なお子さんへの支援 |
| アクティビティ紹介 | ▶年賀状を書いてみよう |
| 職員インタビュー | ▶こどもプラス国府台教室I先生 |
| ことばの発達コラム | ▶脳の機能とことばの関係性とは |



基礎編 ▶ 少し大きなウシガエル跳び

- 1.ウシガエルのポイントを確認しましょう。(顔の位置手を揃える)
- 2.ジャンプをした後、足を手よりも前(手の横)に出せるようにしましょう。
- 3.手は着いたまま、足だけでジャンプができるようにしましょう。
- 4.リズムよく進んでいけるようにしましょう。

! 気をつけるポイント

- 大人は、良い例、悪い例を提示しましょう。速く進む必要はありません。
- 顔を上げないと顔から転倒してしまうことを伝えて、しっかりと顔を前に向けることを意識付けしましょう。
- 足を手の横に置くことが難しいお子さんは、シールなどを床に貼り、分かりやすくしてあげましょう。
- 膝を上手く開けないお子さんには、アヒルの遊びから行い、股関節を開くように伝えてみましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- バランス力：腕に体重をかけることを怖がらずに行える
- 空間認知：ジャンプをした後に、足を着く位置が分かる
- 支持力：両手の手のひらを床に着き、体を支えた状態でジャンプをすることができる

基礎編 ▶ リンゴぶら下がり

- 1.逆手で鉄棒を握りましょう。
- 2.丸いリンゴになることをイメージして、腕、足を曲げてぶら下がった状態になりましょう。
- 3.自分で5秒数えてから、床に足を降ろしましょう。
- 4.腹筋の力を養うために、膝を曲げたら足を高く上げましょう。
「体を小さく丸めてみよう!」という声掛けが、腹筋に力を入れるポイントです。

! 気をつけるポイント

- 腕が伸びてしまう場合は、お子さんの腰辺りを持って補助をしましょう。このとき、お子さんの体重を全て支えるのではなく、ぎりぎりの所で支えてあげるようにしましょう。
- 勢いをつけてぶら下がる子は、足、腕が伸びてしまいます。ゆっくりとぶら下がるように声掛けをしましょう。
- 腕に力が入っていない子は、脇に魔法ののりを塗って腕を曲げてぶら下がるように声掛けをしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 懸垂力・握力：腕曲げを維持できる
- 体のコントロール力：膝を曲げて体を丸めることができる
- 数の認識：自分で5秒数えることができる

発展編 ▶ 両手つき片足クマ

- 1.両手を同時に床に着けましょう。この時、しっかり手を開きましょう。
- 2.顎を開き前方を見る様に意識付けましょう。
- 3.手→足→手といったように、規則正しい動作を確実に繰り返すようにして進みましょう。
- 4.慣れてきたら、上げた足を伸ばしながら進みましょう。

! 気をつけるポイント

- 良い例(両手を同時に床につける)、悪い例(手が片方ずつバラバラに床につく)を提示しましょう。
- 慣れていないと手足同時に跳んでしまい、勢いよく頭部や顔面を打ち付けます。大人は、「手→足」と声掛けをして身体を動かす順番を伝えましょう。
- 両手つきに意識を向けすぎると、手を見てしまい顎が閉じてしまう可能性があります。しっかりと前を見て行うように声掛けをしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 支持力：両腕で全体重を支えながら歩くことができる
- 記憶の操作：手→足の順番で身体を正確に動かすことができる
- リズム感：リズム良く手足を動かし素早く移動できる

発展編 ▶ 逆上がりキック

- 1.大人は、鉄棒の上方に目標物をかざしましょう。
- 2.足を鉄棒より半歩前に出し、目標物を目掛けて勢いよく蹴り上げましょう。
- 3.鉄棒を逆手で持ち、腕や脇を締めて鉄棒に引き付けます。
- 4.顎をしっかりと閉じましょう。
- 5.キックが終わったらお子さんにどこまで足が上がったかを伝え、身体を動かすイメージを湧きやすくしましょう。

! 気をつけるポイント

- 腕が伸びてしまう場合は、魔法ののりを脇や腕に塗り、腕に力が入りやすくなるよう意識付けしましょう。
- 足が鉄棒より後ろにあると、真上に蹴り上げにくくなります。必ず鉄棒より前に足を配置して行いましょう。
- 腕が伸びたり足が上がらない場合は、お子さんの背中や腰を支えて補助をしてみましょう。
- 急いで行くと、蹴り上げるタイミングと、腕を引きつけるタイミングがずれてしまいます。大人が声掛けをして、タイミングを伝えてあげましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 懸垂力：握力や上半身の運動性を使い、腕曲げを維持できる
- 空間認知：目標物に対して目視しながら蹴ることができる
- 協応力：腕曲げと蹴り上げを連動させ、身体を鉄棒上方へ持ち上げることができる

基礎編 ▶ しりとり大縄跳び

1. 大人としりとりを行いながら大縄跳びを跳びましょう。
2. 跳躍リズムを崩さないようにしりとりをしましょう。
3. 両足を揃えて連続で跳びましょう。
4. しりとりをスムーズに受け答えできるように、縄はゆっくり回しましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 跳びながらしりとりをすると、ジャンプのリズムが崩れてしまうことがあります。その場合は、一度縄を止めて答えだけを言って再開するようにしましょう。
- 連続でしりとりをするのが困難な場合は、1回ずつ区切っても構いません。慣れてきたら連続でしりとりを行いましょう。
- しりとりで答えが出ない場合は、大人がヒントを出してあげましょう。
- 5回跳んでも答えが出てこない場合は、違う言葉を投げかけてあげましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- リズム感：しりとりをしながら、一定のリズムを保ってジャンプをすることができる
- 判断力：動きながらも、スムーズにしりとりを行うことができる
- 集中力：動きの途中でも、相手の言葉を聞くことができる

発展編 ▶ 回転しりとり大縄跳び

1. 両足を揃えてリズム良く回転しましょう。
2. しりとりは、答えやすいキーワードから始めましょう。
例) カメ、スイカ、シカ など
3. 床の四角からはみ出ないように、リズム良く腕を振りながら跳びましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- しりとり自体が分かっていると成立しません。言葉に詰まったら大人がヒントを伝えてあげましょう。
- 跳ぶリズムが狂いだしたら、回す縄を止めましょう。
- 膝のクッションをうまく使わないと連続跳びができません。
- 勢いよく回転すると、着地時にバランスを崩してしまいます。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 跳躍力：回転しながら連続跳びができる
- リズム感、協応力：一定のリズムを刻んで跳べるリズムに合わせてしりとりができる
- 語彙、想像力：相手の言葉に合わせ、適切な語彙を引き出し答えることができる

基礎編 ▶ 色鬼

1. 鬼役を決めましょう。初めのうちは、大人が鬼になりましょう。慣れてきたら、お子さんが鬼になって行いましょう。
2. 鬼が指定した色を触るという、一般的な色鬼です。
3. 指定する色は、折り紙や縄跳びなど分かりやすい物を使うようにしましょう。
4. ある程度お子さん達がルールを理解したら、大人は審判員として参加しましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 鬼が色を指示する場所を決めてから行いましょう。逃げる子のすぐ近くで色を指示しても逃げられず、嫌になってしまうことがあります。
- お子さん達に「きゅうりの色（緑）」などの表現を使うように、ヒントを出してあげましょう。
- 鬼役は、小さな声では聞こえないので大きな声を出すことを伝えましょう。
- まずは、色を少なめに設定しておき、徐々に増やしていくようにしましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 空間認知：鬼は、逃げ役の位置を確認して有利な色を判断できる逃げ役は、鬼の位置を確認し安全なコースを選べる
- 語意力：鬼は複雑な表現を使い、色を指定することができる
- 瞬発力：逃げ役は指示が出たら、素早く色を探すために行動することができる

発展編 ▶ カンガルー色鬼

1. 逃げ役は、両足を揃えカンガルージャンプで逃げましょう。
2. タッチをされたら鬼と交代しましょう。
3. 逃げ役は、鬼が言った色に触れることで、鬼に捕まらないルールとなります。
4. 鬼は、「トマトの色」など工夫して色を伝えましょう。

⚠ 気をつけるポイント

- 良い例、悪い例を提示し、走ってしまうお子さんの姿を提示して両足ジャンプを意識付けましょう。
- 足がバラバラになってしまうお子さんには、その都度大人が声を掛け、足を揃えられるようにしましょう。
- 鬼が色を考え出せない場合は、大人がギリギリのところまでヒントを伝えて考えさせるようにしましょう。
- 逃げ方などもお子さん達と話し合い、バリエーションを増やしていきましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 跳躍力：足をくっつけながら高速移動や体の切り返し移動ができる
- バランス力：カンガルーの高速移動が姿勢を崩さずにできる
- イメージ力、語意力：鬼は、色の名称を工夫し表現できる逃げ役は、相手が言ったヒントから色を推測できる

基礎編 ▶ 音聞きゲーム

1. 大人がタンバリンを叩いている間は歩き、叩くことを止めたら足を止めましょう。
2. 静止の時間を長めに取り、お子さんの抑制力を刺激しましょう。
3. タンバリンを叩きそうなフェイントをかけて、楽しく行いましょう。
4. クマの姿勢やウサギの姿勢でも行ってみましょう。

！ 気をつけるポイント

- 広いスペース、長い距離を確保して行いましょう。
止まる、動くを繰り返すため、狭い場所だとお子さん達は早く飽きてしまいます。
- お子さんが走ってしまうと、止まる、動くの動作が区別出来ません。初めのうちは歩きながら行いましょう。
- お子さん達が静止状態の時に、大人はお子さん達の近くに行ってタンバリンを叩くことで、緊張感を高めましょう。
止まることに強く意識が向けられます。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 判断力：タンバリンの合図に合わせ、静と動を使い分けすることができる
- 静止力・バランス力：静止状態を一定時間維持することができる
- 抑制力：急ぎたい気持ちを抑えゆっくり歩くことができる

発展編 ▶ 音聞きゲーム キーワードで止まる

1. 歩いている最中に、大人とお子さんで決めたキーワードが聞こえたら止まりましょう。
2. 体を止める時は、指先や足先まで完全に止まれるようにしましょう。
3. 様々なルールを作りましょう。
例) 「両腕を横に広げて叩いている時は、動かない」
「両手を上に挙げて叩いている時は、進んでも良い」など。
4. 1回が終わった後に再度ルールの変更をして遊ぶのも良いでしょう。

！ 気をつけるポイント

- 話を聞いていないと、ルールが変わったことに気付かないで歩いてしまう場合があります。事前にお子さん達としっかり確認をして、より判断力を育てるように指導しましょう。
- 最初のうちは分かりやすいキーワードで遊ぶようにして、次第に難易度を上げていきましょう。
- ストップ後は、少し長めの静止時間を設け集中力の保持時間を伸ばしていきましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 判断力：音や大人の動きの違いが分かり、動く、止まるといった動作を判断できる
- 静止動作：止まっている時に全身を動かさずに止まることができる
- 記憶力：大人が伝えた「静」「動」のキーワードを理解することができる

基礎編 ▶ ミニハードル走り

1. 走りながらハードルを跳び越していきましょう。出来るだけ広い場所（屋外）で実施しましょう。
2. 最初はゆっくりで構いませんが、慣れてきたらスピードをつけて走り抜けましょう。
3. ハードルの高さは、お子さんの膝くらいの高さに設定して行いましょう。
4. 慣れてきたら、直線のコースではなく、カーブなどを交えたコース設定にしましょう。

！ 気をつけるポイント

- ハードルの前で立ち止まってしまう子やカンガルー跳びで跳んでしまう子がいるので、良い例、悪い例で走り跳びを提示しましょう。
- 最初から高いハードルを使用すると、怖くて跳べなかったり体の操作が不慣れなため転倒する場合があるので、低いハードルから始めましょう。
- 上手に跳ぶためのコツとして、つま先で走ること、手を振ることを意識させましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- 空間認知：ハードルの位置を確認して、ハードルの高さに合わせたジャンプがスムーズにできる
- バランス力：フラフラせず、つま先で素早く走り抜けることができる
- 協応力：身体を上手に使って、素早くコースを走り抜けることができる

発展編 ▶ ミニハードルスキップ

1. ミニハードルを4〜5本設置しましょう。
2. スキップをしながらミニハードルを跳び越しましょう。
3. 腕を振ることを意識付けましょう。最初に腕振りの練習をしてから始めると効果的です。
4. 膝を高く上げることで高くスキップができます。
5. ミニハードルに触れてはいけないことを約束して行いましょう。

！ 気をつけるポイント

- 跳び越す時にリズムが崩れ、走ってしまう場合があります。まずは、ハードルの本数を減らし確実に跳べるようにしましょう。
- 腕振りをしないと、着地時に体勢を崩してしまいスキップのリズムが崩れます。
- ハードルの間隔が狭いと次の体勢への移行が難しくなります。まずはある程度距離を確保して配置しましょう。



教室職員様専用
QRコード



養われる力

- リズム感：一定の動作を繰り返しながらスキップができる
- 空間認知：スキップの歩幅やハードルの高さ、距離を計算し跳び越すことができる
- 協応力：腕振りを活用し、全身の体重移動の微調節を行うことができる

運動プログラム 応用アレンジ

こどもプラス直営教室で実施している運動遊びをご紹介します。
教室で、ご家庭で、お子さんと過ごす時間にぜひ運動遊びを取り入れてみてください。

開脚跳び前転

何人で遊ぶ？

1人から遊ぶことができます。

何を使って遊ぶ？

跳び箱とマットを使います。お家では、布団の上やジョイントマットの上でお家の
人に跳び箱になってもらいましょう。

どこで遊ぶ？

教室、お家の広いスペース、布団の上などで遊ぶことができます。

養われる能力



支持力・跳躍力は、日常生活に必要な力に繋がる

跳び箱に置く手、マットに置く手などで支持力が使われます。上腕・肩甲骨まわり、背中の
力が身に付き、両手をつく活動は転倒時に体を守るだけでなく、呼吸や姿勢、脳の活動にも
良い影響があります。跳び箱を跳ぶ時、前転をする時に使う跳躍力は、上方へ跳び上がる力
で、特に下半身の筋肉を使って行ないます。飛び跳ねることでお腹周りの筋肉や下半身の筋
肉を鍛える事ができます。加えて、歩行の安定や転倒防止にも繋がります。

支持力 跳躍力

リレーをして生活の力に繋がる？

バランス力は、静止姿勢または動的動作中の姿勢を任意の状態に保つ、また不安定な姿
勢から速やかに回復させる力で「立つ」「歩く」など生活機能上の重要な一要素になりま
す。また転倒の予防という点においても重要な力です。身体のコントロール力は、運動
をする時にどこをどうするべきかを考える能力と、それを実行した時に感じる感覚の予
測能力、体を動かす際に重要になる適切な重心の掛け方をコントロールする力です。

バランス力 身体のコントロール力

！ 注意するポイント

- 着地をする前に前転をしようとするとう首を傷めてしまう可能性があります。しっかり両
足で着地をしてから前転の姿勢を取りましょう。
- 大人が見本を見せて、危ないポイントを確認してから遊びを始めましょう。
- すぐに補助できるように、必ず近くに大人がいる状態でチャレンジしましょう。

運動の説明

1 開脚跳びをします

着地する位置には必ずマットを敷きます。
跳び箱で開脚跳びをします。



2 両足で着地してから前転をします

マットの上に両足でしっかり着地したら、そ
のままマットの上で前転を行ないます。



3 【前転が難しい場合】 ロケットジャンプをしてみましょう

マットの上に紐やテープで線を引いてジャン
プで飛び越える『川』を作ります。跳び箱で
開脚跳びをした後、両足で着地し、そのまま
両足で踏み込んでジャンプをします。この
時、両手は頭の上で三角を作るように伸ばし
て、ロケットの形にします。ロケットジャン
プをして川を越えてみましょう！



4 【前転が難しい場合】 カエルジャンプをしてみましょう

跳び箱で開脚跳びをした後、両足で着地し、
そのまま両手を前について、両足をあげ、カ
エルジャンプをしてみましょう。



5 【簡単な場合】 前転ではなく開脚前転にチャレンジして みましょう

簡単に感じるお子さんは、跳び箱で開脚跳び
をした後、前転ではなく開脚前転にチャレン
ジしてみましょう。



作業療法士による 発達支援コラム

毎月作業療法士による「こどもの心身発達と支援方法」をテーマにしたコラムを掲載いたします。

書くことが苦手なお子さんへの支援

今回は『書くことが苦手なお子さん』に対して、原因や支援方法をお話したいと思います。物を書く動作はとても細かい指の運動が必要です。また上半身を同じ姿勢でキープする必要があるため、お子さんにとっては難易度の高い運動となります。

はじめに、書く動作の中で見られるよくある困りごとをいくつかご紹介いたします。



1. 線がふにゃふにゃ・カクカクするなど、安定した線を書けない

【考えられる理由】

- ・鉛筆を正しく握れていない
 - ・指の力が弱い
 - ・手首を置く位置が不安定
 - ・空間を捉えられない
- などが挙げられます。

2. 字の大きさが整わない

【考えられる理由】

- ・空間を捉えられない
 - ・マス目を見られない
 - ・紙・鉛筆の先の位置が分からない
 - ・手先のコントロールが難しく、画数が多い物は大きく書いてしまう
- などが挙げられます。

3. 字の左右が逆になる

【考えられる理由】

- ・左右の認識が未発達
 - ・利き手が定まっていない
 - ・左脳の発達が未成熟
 - ・視覚と運動の協調が未発達
- などが挙げられます。

4. 筆圧が強い（または弱い）

【考えられる理由】

- ・鉛筆を正しく握れていない
 - ・手首を置く位置が不安定
 - ・指の力をコントロールできない
 - ・紙・鉛筆の先の感覚が感じ取れない
- などが挙げられます。



あ
い
う

続いて、解決方法をご紹介します。

1. 線がふにゃふにゃ・カクカクするなど、安定した線を書けない

鉛筆につけるグリップ・握りやすい三角鉛筆など、お子さんが使いやすい道具を使用しましょう。

2. 字の大きさが整わない

字の大きさを均等にするために、以下の工夫がされている教材を使用しましょう。支援をする際は、書くことが嫌いにならないように、強制をしないことが大切です。

- ・マス目に補助線がある教材
- ・書き順が書いてあり、なぞることができる教材
- ・書き初めに点を打ってある教材

3. 字の左右が逆になる

運動遊びに左右の理解が必要な要素を取り入れましょう。

こども達の「楽しい」「できた」に繋がる遊びを選択しましょう。

- 1 方向ジャンプゲームで前・後ろだけでなく、左右の指示も出す
- 2 クモの旗上げゲームで左右の指示を出す
- 3 クマさん歩きで手足を置くマークを床に設置し、左右どちらの手足を置くか指示を出す
- 4 操り人形ごっこで体の動きのマネをする
- 5 クマのフープ渡りで両手足が着く位置を意識する

4. 筆圧が強い（または弱い）

筆圧が強い場合は芯が薄い鉛筆、弱い場合は芯が濃い鉛筆を使いましょう。筆圧が弱い場合、手の感覚を感じ取りやすくするために紙やすりを下敷き代わりに敷くことも効果的です。また、鉛筆を正しく持てるように鉛筆につけるグリップや三角鉛筆を使用することもお勧めです。他にも、座って書く場合は、お腹の筋肉と背中の中の筋肉を使う必要があり、体自体がまっすぐ保てないことも考えられます。椅子にクッションを置いて体の負担を減らす方法もあります。



書き写すことが苦手なお子さんの中には、書いてある文字が見えにくい場合もあるため、字の色や紙の色を変更し、お子さんにとって見えやすい色合いのものを選択することも重要です。教科書を読むのが苦手なお子さんは、他の文字に気を取られて、読むべき箇所を読めていない可能性が考えられます。この場合、下敷きなどで両サイドを隠して対応することができます。お子さん達の抱える様々な困りごとは周囲の大人が認識できるものばかりではありません。そのため、何故お子さんが文字を書く時に困難に感じるのか、どの様に物を見ているのかを考え、対応していくことがとても重要です。お子さん達が自分らしく生きていける手助けができるよう、今後も作業療法士のコラムにて情報をお伝えしていきます。日々の療育にお役立ていただけると幸いです。

参考文献

一般社団法人 熊本県作業療法士会 「書くことの苦手さ」を理解するために
<https://www.kumamoto-ot.jp/pdf/publication/publication04.pdf>

鉛筆グリップ



ぼくたち・わたしたちの アクティビティ紹介

年賀状を書いてみよう

今回は主に中高生が通っている下之郷教室で、どのような運動あそびを行なっているのかをご紹介します。

年末を感じられるイベント

下之郷教室では年末の活動として、年賀状を書くイベントを行っています。表面には干支の絵や新年の挨拶、裏面には送り先や自分の住所を書くということを、みんなで楽しく年賀状を作りながら学んでいきます。先生が書いた見本を見てもらいながら、視覚的にも分かりやすく説明を行います。来年は蛇年ということで蛇の絵を書いたり、数学の問題を書いて届いた人に解いてもらおうとするお子さんもいました。お子さん達の個性がたっぷりと詰まった世界で一枚だけの年賀状が完成しました。



自分の住所を覚えるきっかけになりました

年賀状の裏面に書く住所は、お子さん達にお家で確認してきてもらいました。活動の中で、自分の住所を把握していないお子さんが多くいることがわかりました。自分の家の住所や電話番号を把握すると、普段の生活でも役に立つので、覚えるための良いきっかけになりました。

投函もお子さん達が行ないました

完成した年賀状は教室の近くのポストにお子さん達自身で投函しました。投函する際、お子さん達のワクワクした表情が見られました！😊



年賀状を書く時のポイント

お子さんにご説明した、年賀状を書く上での基本的なルールをご紹介します。

- ① 賀詞
「あけましておめでとうございます」など
- ② 本文
一般的に「旧年中はお世話になりました」となる部分です。他にも、思い出に残っている出来事や、来年の目標・楽しみにしていることなどを書きます。また、年賀状は送る相手以外にも意外と多くの人の目に触れます。誰に見られても恥ずかしくない内容にすることも伝えるといいでしょう。
- ③ 結び
「今年もよろしくお願いします」や「今年もなかよくしてね！」など
- ④ 年号
「令和〇〇年 元旦」など
正しい書き方や言葉遣いなどを知る良い機会になりました。

お子さん達は受け取る相手の気持ちや反応を考えながら楽しそうに活動していました。年賀状のやり取りは1年に1度なので、季節ならではの日本の文化を楽しむことができます。ぜひ、教室やご家庭で取り組んでみてください。

職員インタビュー

毎月、全国のこどもプラスの教室で働く職員さんをご紹介します。

この仕事を選んだ理由は何ですか？

前職で障がいのある方と接する機会があり、身体的ハンデがある中で健闘されている姿がとても印象的でした。その方のサポートをする中でとてもやりがいを感じ、障がいのある方をサポートできる仕事をしたいと思うようになりました。私自身、運動をしていた経験もあり、運動療育に特化したこどもプラスの教室で働きたいと思いました。

担当業務ではどんなことを工夫して支援に当たっていますか

こどもプラス国府台教室では、日頃から運動療育に力を入れています。私は球技の経験があるので、運動遊びにもボールを使った動きを取り入れるなど、日々様々な工夫をしています。運動が好きではないお子さんに対しては、動物になったり忍者になったりなど、お子さんに合わせたテーマを付けて、楽しんでもらえるように工夫しています。また、お子さんが運動を本来の形でできていなくても、頑張れたことをとにかく褒めようと心がけています。



こどもプラス
国府台教室
I先生

心に残っているエピソードがあれば教えてください

教室から学童へ送迎する際に、教室が楽しかったのか、お子さんが「帰りたくない」と言ったことがありました。その際、学校の校庭で10分くらい様々な話をし、より深くコミュニケーションが取れたことが嬉しく、今でも印象に残っています。

お子さんとの関わりで大変だと感じることはありますか？

年齢幅も広く、お子さんそれぞれに個性があるので、働き始めた頃は特に接し方一つ一つにとっても悩みました。

今後の目標があれば教えてください

こども達に楽しいと思ってもらえる教室作りはもちろん、職員も楽しく働ける環境を作っていきたいと思っています。

言語聴覚士による ことばの発達コラム

毎月言語聴覚士が「子どものことばの発達」をテーマにコラムを掲載いたします。

脳の機能とことばの関係性とは

ことばを獲得していく過程は、脳の発達がとても大きな影響を与えています。現在でもことばと脳に関する研究は様々な視点で行なわれていますが、はっきりと証明することがとても難しい分野の1つです。今回は、そんな脳の機能や役割について、脳の場所による違いという視点からご紹介したいと思います。

前方と後方の違い

脳の表面にて眉毛の上から頭の頂上までの前方を“前頭葉”といい、後方を“頭頂葉”や“後頭葉”といいます。前頭葉は、計画、意思決定、感情の制御、社会的行動の調整など、高度な認知機能を担っています。特に、発話と発音の制御において重要なブローカ領域と呼ばれるエリアが含まれており、ことばを話す役割に大きく関与しています。一方、頭頂葉は主に聴覚、後頭葉は視覚の処理を担っています。つまり、脳の後方は「見る」「聞く」などの感覚機能のエリアです。

左側と右側の違い

脳は、左脳と右脳の大きく2つに分かれており、それぞれは情報を伝え合う神経で繋がっています。多くの方は、ことばに関する言語処理を左脳で行っており、特にことばの理解をウェルニッケ領域が、ことばの生成（発話）をブローカ領域が関与しています。他にも、論理的な思考や数学的処理も左脳が得意としています。反対に、右脳は空間認識や感覚処理、創造性、音楽などの理解に関与しています。また顔の認識や感情の解釈など、非言語的な情報処理を担当しています。

中心部と周辺部の違い

脳の中心部は、視床や海馬、扁桃体などの感情のコントロールなど、短期記憶に関与する大切な場所です。ここで記憶された内容のうち、これからも必要だと判断された内容は周辺部にある“大脳皮質”に長期記憶として蓄積されていきます。この大脳皮質では、ことばの名称だけでなく、運動、思考、判断なども行っており情報間で複雑に繋がっていきます。つまり、「りんご」と聞いただけではすぐ忘れてしまうのに対して、ことばで聞くと同時に、りんごの味や食感、色や形、手で触れた感覚などが組み合わされると、複雑に紐づけられながら長期記憶されていきます。

また、繰り返し練習や経験をすることで脳が“必要だ”と判断し、ことばを獲得していくことにも繋がっていきます。

今回はことばの獲得に対する脳の発達の影響についてご紹介しました。

脳の機能や役割について知っていただき、今後の支援に役立てていただければ幸いです。

